

画本
抱歌
風景圖
山

下

國立
民族
博物館
藏書

2014.2.13



玉藻経成

金司と祖師の
辻子のらうすも
えのひふくろも

新司あ

段上登

誰一トモ多式の
尼小彦也
白きも呂くも
妙法

朱面之彌九
祥一郎・英義
ちづ



西宮の
夙草うさ

守常持

立そよど
肩すよの
立そよど
新司うさ

月藏人

新司うさ
うさ
うさ
うさ
うさ



能樂茶事成

鳥の江ノ

六よも

らまゆ

上凡トニあ

西向天井

降し室丸



芭田又庵

さうすまうと
うじうつめのまよ
えほひとし

そんや
ほそん

庵 郎平

えりあらか
不外とまはま
中あ車

アタマ

操ひ舞風

吉國のこゑ
ほしの
ほれ

赤
鷺輪

七五



竹代
木屋の山の
旅へい
わゆの浦
すくすく望ま

岩井巻
良闇

すゆの旅
旅振り
うし車タモ
あ風の旅と
りあ

船舟歌

うきわの
うきわ

うきわ

久西門風

えきのる
活活の水
井のまのよみ
いわく

稻ふすみ人風

たかひわの
玉の水
アモトの下の
月の

津波風

おはな
活活の
月の



波のうき
あそぶ
あそび

思葉代人

みやび
波波うきの
も
水のうきと
れる族人

豊出來秋

水うきら
えねく
うりくに
流はの湖



紀西至多

十二支の牛通

うしゆき

うしゆきの
くにがわ六五

山中里通

くにがわへ石を年々

ふ度うりり

うしゆきの通

江津くぬ

えふ津の人

くにがわ

十文主



着實圓成

まほくもくう

うのゆひだ

かくはくす

丸柄南面

ほくとく只

一見

うのまよの

まよの



ふ代古道

丁度の壇もあす
ノヒミのまか
ねもつげく
津屋のあ

秋の月人

るよすよ
あめいつ
おもてまくす
たけくわの
せうひ

至る音

まくらの
川の音
神の音



月の准

ほろひく
まよ物音

さうのはるの
ひうすがとくと
梅の空

附註

理火のあすべ

わくへ

そりのあ
そりのあ





醉月庵
夢馬

さうす人や

とひくな

ふき人の

けふりの

小良廣役

秋やうすうりて

まえあらう

周立せう

おうけ

市子

禁庵道

三月の春の花の

痛の先方
人のよ、城

佐仲住

このよのまさら
ののむくゆく
人一メーす
やつても

荒田袖廣

枯木のよる

かく

人やうさん



煙草
胡配頭

煙草
胡配頭

ナニシナム

扇のうす

ロイコ春

タマ



三十一



花子

大原亭
戻る

花子

花子

阿一駄の山へよむる畢竟とさく
西北承先人、例のうんととゆき
たもれ歌を、城のれ炭方便、鍛
せうよわ縦、アヒトと機と深
えりの曲、アヒトをせうしやよ
焼、小やくうきの火うちをつま
卷のあらへよあらじよよん

大原亭
炭方

